

「いつから新学期から始まるのですか?」「わかりません」「どうやって知るのですか?」「テレビで流れるのです」私がいた頃のイタリアの話である。6月で学校が終わる。その後は約3か月に及ぶ休みである。9月から新学期がスタートするのだが、何日から始まるのか誰も知らない。テレビで知るらしい。だが、9月何日に全員が登校してくるわけではない。1週間くらいをかけて、徐々に人が増えていくらしい。始業式などない。それでもうまくいっている。日本とは対照的である。

日本は、時間に遅れないことを前提としている。そのため、遅れた場合の対応力は低いかもしれない。一方、イタリアのような国は、遅れることが当たり前である。イタリア人は時間にルーズなのかもしれないが、建前として設定した時間と、本音として守ろうとしている時間にズレがあるだけである。そのズレは少なくともイタリア人の間では共有されていて、社会はうまく機能している。15分から30分の遅れは、ちょうどハンドルの遊びのようなものである。杓子定規でない寛容な社会を無意識のうちに生み出しているのではなかろうか。

もちろん、大学の授業でも、教授は15分遅れてくるものだという暗黙の合意がある。9時開始の授業ならば学生たちは9時15分を目指して集まってくる。万が一教授が9時に来ようものなら、学生はほとんど集まっていない。そのため、授業を始めてから学生がぞろぞろと教室に入ってくるという不愉快なことになる。だから、教授もそんな事態を避けるために、ちゃんとルールを守って15分遅れてくる。

会議に行く。いつものように早めに会場に着く。最後の参加者が会場に入る。「すいません。遅くなりました」まだ、開始時間前である。こんなことがよくある。自分以外がそろっていると、ついつい「すいません」と言ってしまう。すると、「まだ開始前ですから」となる。

「まだ時間前ですが、皆さんお揃いですので会を始めさせていただきます」これもよく聞く。5分前にスタートする会もある。学校では、「5分前行動」という言葉を使って、子どもたちに指導する場合がある。修学旅行のときなど、遅れたら大変ということで、子どもたちは早め早めに集合することになる。きっと、日本はお互いに窮屈である。人様に迷惑をかけないようにしている。それはわるいことではない。

これからの日本人は、今まで以上に海外に出ていくようになる。その国の文化や慣習の違いに戸惑い、ストレスを抱えることも多いだろう。この国では、これが当たり前だ。そう思えないと苦しくなる。特に、仕事上のことであれば、イライラすることも多いはずである。だが、その国ではどうにもならない。時間に対する“遊び”が重要である。